

1 題材名 「快適で持続可能な衣生活を目指して」 B衣食住の生活

2 題材の目標

- (1) 衣服と社会生活との関わりが分かり、目的に応じた着用、個性を生かす着用、衣服の適切な選択、衣服の計画的な活用の必要性、衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて理解するとともに、それに係る技能を身に付ける。
(知識及び技能)
- (2) 衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。
(思考力、判断力、表現力等)
- (3) よりよい生活の実現に向けて、衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとする。
(学びに向かう力、人間性等)

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 衣服と社会生活との関わりが分かり、目的に応じた着用、個性を生かす着用及び衣服の適切な選択について理解している。 - 衣服の計画的な活用の必要性、衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて理解しているとともに、適切にできる。	衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	よりよい生活の実現に向けて、衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

4 題材について

(1) 題材観

本題材は、中学校学習指導要領解説技術・家庭編（平成29年7月）のB衣生活（4）「衣服の選択と手入れ」を受けて設定している。ここでは、課題をもって衣服と社会生活との関わりについて理解し、衣服の適切な選択や着用及び手入れに関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、これからの衣生活の課題を解決する力を養い、工夫し創造しようとする実践的な態度を育成することをねらいとしている。近年、生徒を取り巻く状況は、大型衣料店で安く質の良い既製品が手軽に購入できるようになったため、着用しなくなった衣服はすぐに廃棄をするなど、衣服を大切に長く着るという意識は低くなっている。衣服を快適に長く着用するためには、流行や好みだけでなく、手入れの仕方を含めて選択をする必要性があることに気付かせたい。そこで、本題材では、衣服を快適に着用するために、衣服を計画的に活用することの必要性を理解するとともに、材料や状態に応じた手入れの仕方に関する基礎的・基本的な知識や技能を習得して、自分にもできることがあることに気付かせ、問題を解決しようとする力を身に付けさせたい。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、家庭分野の授業への興味・関心は非常に高いものの、「衣生活」の内容に対しての興味・関心はやや低い。アンケートを実施（令和6年*月*日）したところ、家庭での洗濯に関しては全員が家族に任せており、「自分で衣服の洗濯をしたことがある。」と回答した生徒は*%、「衣服の洗濯を全くしたことがない。」と回答した生徒は*%いた。大部分の生徒は、「衣服の手入れができるようになりたい。」と思っているが、「洗濯や手入れの仕方が分からない。」「手入れをする機会がない。」など、知識や技能が身に付いていないことも分かった。このことから、衣服の手入れの仕方を学ぶことで、実際に手入れが必要になった時に、そのままにしたり人任せにしたりするのではなく、適切に手入れをして長く着用しようという意識をもたせたい。そして、本題材の学習を通して、材料や状態に応じた手入れの仕方を身に付けることで、これからの衣生活がよりよいものとなることに気付かせたい。

(3) 指導観

指導に当たっては、身近な衣服の汚れを取り上げ、共通の課題を提示することで、イメージをもちやすくする。私たちの生活の中で、衣服の手入れは欠かすことのできない内容であるので、基礎的・基本的な知識及び技能を活用してよりよく課題を解決する力を育成したいと考える。また、題材を通して、健康・快適・安全で豊かな衣生活を営むための視点を明確にし、今まで洗濯をする機会がなかった生徒が、自分の衣生活に対する意識を高め、自ら生活の課題に前向きに取り組む解決していけるように育てたい。

5 題材の指導計画（7時間扱い）

時	学習内容・活動	知	思	態	評価及び評価方法等（・は指導上の留意点） ○は指導に生かす評価、◎は記録に残す評価
1	健康・快適・安全で持続可能な衣生活を送るためには、どのようなことが大切なのだろうか 学習課題 自分の衣生活にはどのような課題があるのだろうか。 - 様々な行事や活動の際、どのように衣服を選んで着用しているのかを考える。 - タブレット端末を使って、衣服と社会生活との関わりについて調べる。 - 自分のこれまでの衣生活を振り返り、課題を設定する。 まとめ 衣服には、保健衛生上の働きや生活活動上の働きだけでなく、社会生活を営む上での機能（TPO）などがある。さらに、自分の衣生活を見つめ、振り返ることも大切である。	○	◎		知：衣服と社会生活上の関わりについてイメージしにくい生徒には、小学校における衣服の働きを振り返らせたり、毎日着用している制服や体操服、様々な行事などでの服装を想起させたりして、生活経験と重ねて衣服と社会生活との関わりについて考えられるようにする。【観察】 思：自分の衣生活について課題を見だし、健康・快適・安全で持続可能な衣生活の実現に向けて課題を設定している。【観察・ワークシート】
2	学習課題 目的に応じた自分らしい着方とは、どのようなことに気を付ければよいのだろうか。 - グループで、カラーコーディネート布を使って自分に似合う色を知る。 - TPOに適した衣服について、自分なりの衣服のコーディネートを考え、グループ内で発表し合う。 まとめ 人に与える印象や着用目的を考えた服装を心がけながら、自分らしさや個性を表現することも大切である。	○	◎		衣服の色柄や形、上下の組み合わせによって人に与える印象が異なることに気が付けるように資料提示や声かけを行う。 知：コーディネートが進まない生徒には、衣服に関するカタログや広告を提示してイメージしやすくする。【観察・ワークシート】 知：衣服と社会生活との関わりが分かり、目的に応じた着用や個性を生かす着用について理解している。【観察・ワークシート】
3	学習課題 和服と洋服には、どのような違いがあるのだろうか。 - 行事や人生の節目に着用する和服について知る。 - タブレットを使って、和服に使われている織物や染物の文様の種類や意味などについて調べる。 - 和服と洋服の構成や着方の違いについて、グループで話し合う。 まとめ 和服は日本の伝統的な衣服であり、冠婚葬祭や儀式、祭りなどで着用する。和服は平面、洋服は立体構成である。	◎			日本の衣文化について関心が高まるように、実物や写真資料を提示する。 知：衣服と社会生活との関わりが分かり、目的に応じた着用や個性を生かす着用について理解している。【観察・ワークシート】

4	学習課題 既制服の表示やマークは、何を意味しているのだろうか。 ・衣服を購入する際の優先順位について、ダイヤモンドランキングを行い、グループ内で意見交換する。 ・持参した私服の表示を確認し、組成表示、取扱い表示、サイズ表示等についてタブレット端末を使ってまとめる。 まとめ 衣服の表示は、衣服を購入したり、衣服の材料に応じた手入れをしたりする際に大事な情報である。	◎		・具体的な既制服の購入場面を提示し、学習活動に興味・関心を高める。 ・持参した私服を用いることで意欲を高め、様々な表示に気付くようにする。 知：衣服の適切な選択、計画的な活用の必要性、材料や状態に応じた日常着の手入れについて理解している。 【ワークシート】
5 本 時	目標：衣服の材料や状態に応じた手入れの仕方を考え、工夫することができる。 1 前時の振り返りをする。 2 本時の学習課題を確認する。 学習課題 「4つの衣服のトラブル(①ケチャップの汚れ②靴下の泥汚れ③襟の汚れ④コーヒーの汚れ)」には、どのような手入れをしたらよいのだろうか。 3 「衣服の4つのトラブル」について、それぞれ解決策を話し合う。 (1) トラブルごとに、理由とともに自分の解決策を考える。 (2) 個人の意見を持ち寄ってグループで話し合い、理由とともにグループの解決策をまとめる。 4 「衣服の4つのトラブル」について、グループの代表者が、グループでまとめた解決策を発表する。 (1) グループ代表が発表する。 (2) 他のグループの発表を聞いて、参考になるところをワークシートにまとめる。 5 本時のまとめをする。 まとめ 衣服は、繊維の特徴やそれぞれの汚れに応じた手入れが必要である。 6 本時までを振り返り、今後実践したいことを自分の言葉でまとめる。	◎	◎	・前時までの学習カードやワークシートを見返す時間を十分に確保し、これまでの学習を振り返られるようにする。また、本時は既習内容を活用した学習課題であることを伝え、学習意欲を喚起する。 ・ある家庭の衣服の汚れの事例を提示し、自分の生活と関連させながら考えられるようにする。 ・解決策について自分の考えがまとまらない生徒や、話し合いが進まないグループには、タブレット端末を活用したり書籍を参考にしたりするように促す。 思：衣服の材料や汚れの状態に応じた日常着の手入れの仕方を考え、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現している。 【観察・ワークシート】 ◎ 態：材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方について、課題の解決に主体的に取り組んでいる。 【観察・ワークシート】 ・今後の実生活で実践したいことがあれば記入するように促す。

6	学習課題 効率よくアイロンがけをするためには、どのような工夫があるのだろうか。 - 動画を参考に、アイロンがけのポイントをまとめる。 - グループで、ポイントを確認し合いながら、バンダナと給食当番白衣のアイロンがけを行う。 まとめ アイロンがけは、衣服の素材や取り扱い表示を確認し、それに適した方法で手入れをすることが必要である。	◎		身近な給食当番白衣を取り上げることで、実生活での実践に生かせるようにする。 知：衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて理解しているとともに、適切にできる。 【観察・ワークシート】
7	学習課題 環境に配慮した衣生活を送るために、自分たちにできることは何だろう。 - 手持ちの衣服を点検し、購入から廃棄までを振り返りて改善策をまとめ、グループ内で発表し合う。 - 環境に配慮した衣生活について、グループで話し合い、グループ代表が発表する。 まとめ よりよい衣生活の実現に向けて、衣服の購入から廃棄まで、見通しをもった衣服計画をすることが大切である。 - 題材全体を振り返り、今後実践したいことを自分の言葉でまとめる。	◎		- 衣服の購入から廃棄までに関するアンケート結果を提示したり、身近な衣服がリサイクルされている様子などを取り上げたりして、学習意欲を喚起する。 ◎ 態：衣生活について学んだことを活用して、よりよい衣生活を工夫し創造し、実践しようとしている。 - これまでの学習カードやワークシートを見返す時間を十分に確保し、題材全体の学習を振り返られるようにする。また、今後の衣生活で実践したいことがあれば記入するように促す。